

被ばく低減対策好事例集

場所		分類		G 7	番号	28-22
原子炉建屋内	RB	1	時間			
タービン建屋内	TB	2	距離			
R ZONE	R	3	遮へい			
Y ZONE	Y	4	線源の除去			
G ZONE	G	5	遠隔、ロボット化			
その他()	Z	6	汚染拡大防止			
		7	その他			

内容	敷地内区域細分化による防護装備着用の削減			
作業部位	グリーンゾーン全域			
概略	敷地内の環境線量低減対策の進捗を踏まえて、汚染の高いエリアとそれ以外のエリアを区分した。			
評価 (定性・定量)	効果		対策前	対策後
		被ばく線量(mSv)	--	--
		人工数(人日)	--	--

事例詳細

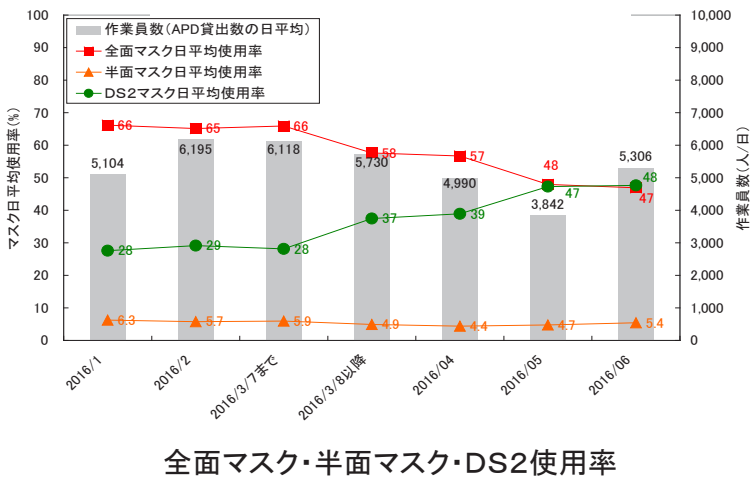
対策前 汚染区分による装備区分けが十分に行われておらず、必要以上の重装備となり、作業者負担が増大、作業効率が低下していた。

対策内容 汚染区分毎に作業装備を区分けした結果、防護装備と作業者身体負担軽減となり作業効率が上がって被ばく低減となった。



R zone (アノラックエリア)	Y zone (カバーオールエリア)	G zone (一般服エリア)
全面マスク 	全面マスク 又は 半面マスク ※1 ※2 	使い捨て式防じんマスク
カバーオールの上にアノラック 	カバーオール 	一般作業服 ※3 構内専用服

※1 水処理設備(多様な除去装置等)を含む建屋内の作業(視察等を除く)は、全面マスクを着用する。
 ※2 濃縮塩水、Sr処理水を内包しているタンクエリアでの作業(濃縮塩水等を取り扱わない作業、パトロール、作業計画時の現場調査、視察等を除く)時及びタンク移送ラインに關わる作業時は、全面マスクを着用する。
 ※3 特定の軽作業(パトロール、監視業務、構外からの持ち込み物品の運搬等)



●運用開始前後、全面マスクの日平均使用率が減少(約66→約47%)。使い捨て式防じんマスクの日平均使用率が増加(約28→約48%)。

●全面マスクから使い捨て式防じんマスク(DS2)への装備改善が可能となった。(これにより作業効率が上がった。)